

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	有限会社 えがお	代表者	小場佐 美穂	法人・事業所の特徴	①私達は、この施設を選んで頂いた利用者様をえがおにします。②私達は、この介護の道を選び楽しみ成長します。③私達は、この町から選ばれた施設として地域全体をケアします。の3つの理念として掲げ、小規模多機能型居宅介護事業所として柔軟にサービスを提供し、利用者様の自立支援を促す事を目指しています。
事業所名	小規模多機能ホーム ぼほえみ	管理者	徳永 義昭		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	2人	1人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	改善計画については、適切にPDCAサイクルを活用し改善を図る。	・ミーティングやカンファレンス等により利用者の情報の共有はできていたが、新規利用者の本人や家族の情報のとらえ方で職員の対応の差が出ていた。	自治体や地域包括支援センター等の会議に半数の職員ができていない改善の余地がある。 スタッフがいる、チームワークがとれている。	自治体や地域包括支援センター等の会議や訪問調査、家族との会合に職員も積極的に出席する。
B. 事業所のしつらえ・ 環境	身体拘束の研修については、内部、外部研修に限らず、研修参加を通してスタッフ全員が共通の理解を持ち、統一したケアを実施する。	・個々の利用者にも、きめ細かく対応する時間づくりができていない為、利用者とのゆっくりに話ができている。	施設は、開放的で出入りしやすい。 職員も改善計画に努力している。 洗濯物を置かず、テラスを利用者の日なたぼっこ等に活用してほしい。 中庭にベンチが欲しい。	毎週火・金曜日を喫茶の日とし、利用者とのゆっくりに話す時間を設ける。(暖かい日は中庭、テラスを活用する)・身体拘束・虐待防止に関する委員会を設立する。
C. 事業所と地域のかかわり	地域サロン等で事業所内容の説明や周知を行って行く。また、介護相談窓口についても広報誌等を活用させて頂き周知する。	・地域とのかかわりは管理者に任せきりになっていった。今後は、職員もかかわっていきようにする。	問題点は、クリアできていないと思う。 職員の皆さんと仲良くさせよう。	職員が交代で地域型サロン出前講座を行う。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	散歩以外にも、地域との関わりをケアプランに反映させ支援を行う。	・地域との関係は毎月の地区サロンでつづられている。	地区のサロンのお手伝いをしてもらっているが区民との交流がない。 区の老人会にも声かけすると施設訪問の回数が増えるのではないかと。	地区のサロンや地区の方にも交流を図る。 地域に出向き地域の方とも交流を図る。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	事例検討については定期的に議題とし、その後の改善策や経過報告を行う。	・運営推進会議を通して意見交換ができていく。 ・事業所運営に関しては、管理者任せになっている。	運営推進会議での意見を「改善」「反映した」という結果を後の会議で報告してほしい。 運営推進会議の内容をもう少し分かるように説明してほしい。	運営推進会議での意見を後の会議で経過報告する。
F. 事業所の 防災・災害対策	今後は近隣住民に対して、消防訓練のお知らせ、訓練内容の報告、連絡体制のお知らせ等を行い情報共有を図る。	・近隣の住民に対して、消防訓練の内容のお知らせはできていないのかと思う。 運営推進会議で事業所の「防災計画」を示し、皆さんの意見を聞いてはどうか。	地域の防災訓練には参加できる利用者が少ないのかと思う。 運営推進会議で事業所の「防災計画」を示し、皆さんの意見を聞いてはどうか。	防災訓練計画を運営推進会議に示し意見を聞き、防災訓練に反映していく。